



24時間測定可能なバイオフィクプレートリーダーHiTSの開発

NEWインキュベーションリーダー、HiTS(ヒッツ)[96 ウェルマイクロプレート専用]の細胞・微生物振とう培養リーダーの開発。振とう培養しながら経時変化を測定可能、薬剤・化合物・酵素反応の新たな発見・抗生物質の再評価に最適。24時間自動で測定できスピードアップも図れ、専用分析ソフトも装備。

本業の動向について

バイオテクノロジー機器の製造、販売。企業とのコラボレート開発、製造。OEM製品(理化学機器)の開発、製造を主要業とする。業況としては新製品が今までに無いピッチで実用化・製品化されている。弊社のユーザーは研究室などが多く、事業の統一などにより減っている。これまでも他社に無いものを開発・製造してきた企業体質のおかげで淘汰されずに至っている。

公設研究機関との連携事業について

連携先公設研究機関の名称

独立行政法人理化学研究所

所在地

埼玉県和光市広沢 2-1

連携内容

NEW インキュベーションリーダー、HiTS(ヒッツ)[96 ウェルマイクロプレート専用]の細胞・微生物振とう培養リーダーの開発。振とう培養しながら経時変化を測定可能であり、薬剤・化合物・酵素反応の新たな発見、抗生物質の再評価に最適です。少量サンプルの測定から細胞・微生物を増やす為の温度管理や、24時間自動で測定できる点でスピードアップも図れる。また、専用の分析ソフトも備えています。

連携した動機やきっかけ

分析装置や測定装置を収めていた関係から理化学研究所とは元々付き合いがあり、既にOEMで20年位前にOEM開発製造をした製品の改良型の開発に当たって理化学研究所のノウハウを活用することとした。

連携の効果

会社の知名度が上がり、会社全体のイメージアップにつながった。これまで行ってきた技術、製品に対する裏付けが出来た。開発製品への信頼性が上がった。

連携して最も効果のあったこと

実際、自社の製品がエンドユーザー(ほとんどが研究室や研究機関)にどのように使用されているかということを見ることはこれまで無かったが、今回、連携を

行い理化学研究所の研究室に通う中で目にすることが出来、更に現場サイドの製品に対する情報も得ることが出来た。連携の効果と同じく理化学研究所との連携ということで製品に対する知名度も上がりそのことでユーザーからの製品の依頼が増え、ユーザーからの口コミにより更に増えるといったことが起こった。分析装置や測定装置というものは輸入品が多いが、今回の開発製品により、国産品でも十分に対抗できることが分かり、将来への見通しも出来た。

連携して最も困難だったこと

あまり無かったが、しいて言うならば、課題を解決するための情報収集や限られた期限内で目標達成するという点が困難であった。

連携するメリット・デメリットについて

メリットとしては連携開発などには予算がついてるので満額使い切ることである。デメリットとしては書類が多すぎる。事務手続きを簡素化して欲しい。

連携に際しての注意、アドバイスなど

連携開発をする際には会社の全てが調べられるので、必ず黒字で始めること(たとえ1円でも黒字は黒字である)。自分の会社の属する産業の公的機関の公募など(年に数回は必ずある)の情報を絶えず注意しておき、これはと思ったら迷わず応募すること。公募に際しては応募書類等が必要なのでいつでも提出できるように準備しておく。

公設研究機関との連携で行政に望む支援

研究者が思う存分研究開発を出来るように研究者に対する予算をふんだんに出して欲しい。製品開発を担当する中小企業側が、高価な測定装置などをいつでも自由に使用できるような、レンタル施設を作って欲しい。何らかの特許権が関わる研究分野においては、新製品を開発・製品化するにあたっての支援・フォローなど望む。

会社概要

設立:1971年(昭和46年)2月

資本金:1,000万円

従業員数:22名

URL:<http://www.scinics.co.jp>